

市区町村広報紙の副詞と用字

齋藤達哉*

1. はじめに

本稿は、公共性の高い情報媒体における表記の在り方に関する研究に資する目的で、市区町村の広報紙に用いられた「副詞」の表記について調査・報告するものである。

表記の問題の背景として、2010年11月に常用漢字表が改定され、今後、文化審議会国語分科会で「公用文の表記」の検討が予想されることが挙げられる。本稿では、公共性の高い情報媒体である市区町村の広報紙を公用文の一つとして捉え、その表記の実態を調査・報告する。それとともに、広報紙の用字のよりどころとしてどの程度の範囲を覆うものが必要なのかを考える材料を提供したい。

以下、2.では、調査対象とした広報紙のサンプリングの概要を説明する。3.では、広報紙名を分析対象にして使用文字種の指向について考える。4.では、広報紙が特に配慮している読者層について調査結果を示す。

5.～7.では、公用文の用字との比較において、広報紙の副詞が平仮名表記に傾斜していることについて報告する。8.では、広報紙の記事内容と副詞の表記の揺れとの関係について報告する。

なお、本稿で副詞を取り上げたのは、次のような理由からである。実質

*専修大学文学部准教授

的な意味を有する語（名詞、動詞など）の場合、使用頻度は記事内容の影響を大きく受ける。一方、記事内容の影響を受けにくい助詞、助動詞の場合、表記（漢字で書くか、仮名で書くか）はほぼ固定しており、揺れの問題は生じない。自立語の中で、記事内容に比較的左右されにくく、かつ、表記の揺れが生じがちなのは、副詞、連体詞、接続詞である。そこで、広報紙で語数が多かった副詞を取り上げることにした。

2. 調査対象とした広報紙

2.1. 市区町村の抽出方法

調査対象とした広報紙は、サンプリングを経て選んだものである。まず、サンプリングによって市区町村（地点）を抽出し、その市区町村で配布されている広報紙を収集するという方法をとった。

市区町村は、独立行政法人統計センターが公開する「e-Stat」(<http://www.e-stat.go.jp>)による2008年12月1日現在の統計データに基づいている。市区町村のサンプリング方法は、以下の方針によって、100市区町村を抽出した。この方針は、文化庁「国語に関する世論調査」で用いられているものと同等である。

- (1) 全国の市区町村を、都道府県単位として、北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州沖縄の9ブロックに分類する。
 - (2) 各ブロックを、更に都市規模によって、①大都市（東京都区部、政令指定都市）、②人口10万人以上の市、③人口10万人未満の市、④町村に分類する。
 - (3) 地区・都市規模別各層における人口比に基づき、100市区町村を抽出する。
- なお、サンプリングに用いた数値は、表1に示す。

2.2. 広報紙の抽出方法

広報紙は、サンプリングによって抽出された100市区町村において、2008年中に配布されたものを対象とした。市区町村（地点）数は100であるが、その地点が政令市のときは、市版と区版とが配布されることがある。そのため、地点数よりも多い109種の広報紙が調査対象となった。

広報紙1種ごとに、2008年発行分から分析対象とする号を無作為で選び、広報紙1種につき6万字分を電子テキスト化した（入力が号の途中で終わることのないようにしたため、6万字を超えた広報紙もある）。

表1 市区町村数とサンプリング数

		2008年12月1日現在				
		① 大都市 (東京都区部、政令指定都市)	② 人口10万人 以上の市	③ 人口10万人 未満の市	④ 町・村	市区町村計
北海道 ブロック	人口(人)	1,880,863	1,580,211	1,042,550	1,124,113	3,746,874
	人口比(%)	1.51%	1.27%	0.84%	0.90%	3.01%
	市区町村数	10	8	26	151	185
	市区町村抽出数	2	1	1	1	3
東北 ブロック	人口(人)	1,025,098	3,787,635	2,888,104	1,934,080	8,609,819
	人口比(%)	0.82%	3.05%	2.32%	1.56%	6.93%
	市区町村数	5	18	56	155	229
	市区町村抽出数	1	3	2	2	7
関東 ブロック	人口(人)	14,169,914	17,682,438	5,898,676	2,416,797	25,997,911
	人口比(%)	11.40%	14.23%	4.75%	1.94%	20.92%
	市区町村数	64	82	93	132	307
	市区町村抽出数	11	14	5	2	21
北陸 ブロック	人口(人)	813,847	2,245,442	1,974,039	505,478	4,724,959
	人口比(%)	0.65%	1.81%	1.59%	0.41%	3.80%
	市区町村数	8	10	38	33	81
	市区町村抽出数	1	2	2	0	4
中部 ブロック	人口(人)	3,732,817	7,729,116	4,506,322	2,122,523	14,357,961
	人口比(%)	3.00%	6.22%	3.63%	1.71%	11.55%
	市区町村数	26	40	82	154	276
	市区町村抽出数	3	6	4	2	12
近畿 ブロック	人口(人)	6,459,981	8,844,639	4,299,942	1,288,505	14,433,086
	人口比(%)	5.20%	7.12%	3.46%	1.04%	11.61%
	市区町村数	51	37	70	94	201
	市区町村抽出数	5	7	3	1	11
中国 ブロック	人口(人)	1,154,391	4,315,055	1,527,132	679,169	6,521,356
	人口比(%)	0.93%	3.47%	1.23%	0.55%	5.25%
	市区町村数	8	19	34	56	109
	市区町村抽出数	1	3	1	1	5
四国 ブロック	人口(人)	0	2,071,276	1,341,799	673,382	4,086,457
	人口比(%)	0%	1.67%	1.08%	0.54%	3.29%
	市区町村数	0	8	30	57	95
	市区町村抽出数	0	2	1	1	4
九州沖縄 ブロック	人口(人)	239,804	5,584,654	4,321,556	2,413,514	12,319,724
	人口比(%)	0.19%	4.49%	3.48%	1.94%	9.91%
	市区町村数	14	24	91	173	288
	市区町村抽出数	0	4	3	2	9
全 国	人口(人)	29,476,715	53,840,466	27,800,120	13,157,561	94,798,147
	人口比(%)	23.72%	43.32%	22.37%	10.59%	76.28%
	市区町村数	186	246	520	1005	1,771
	市区町村抽出数	24	42	22	12	100

3. 広報紙タイトルに見る使用文字種の指向

3.1. 紙名中の地名表記と文字種

100市区町村で配布される109種の広報紙について、紙名中の地名表記に使用されている文字種を調査したところ、次のような結果になった。

◇紙名中の地名表記に使用されている文字種

- (ア) 漢字のみ……………17タイトル¹⁾
- (イ) 平仮名のみ……………80タイトル²⁾
- (ウ) 片仮名のみ…………… 0タイトル
- (エ) ローマ字のみ…………… 0タイトル
- (オ) 複数の文字種³⁾
 - ・漢字と平仮名…………… 2タイトル
 - ・漢字と片仮名…………… 1タイトル
 - ・漢字とローマ字…………… 1タイトル
 - ・平仮名ローマ字…………… 2タイトル
- (カ) 地名は含まれていない…………… 6タイトル⁴⁾

割合で見ると、約7割の広報紙がタイトル中の地名を「平仮名のみ」で表記していることが分かる（図1参照）。

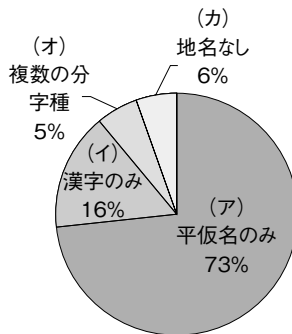


図1 広報紙名中の地名に用いられた文字種

3.2. 文字種のイメージについてのアンケート調査

広報紙タイトル中の地名の表記として、平仮名が好まれる理由は何であろうか。このことについて、109種の広報紙を対象に質問紙調査を行った。

質問の内容は、「広報紙の紙名中で市区町村名が漢字、平仮名、片仮名、ローマ字で記される場合、その文字種を用いている理由は何か」で、2009年6月9日付けの郵送で依頼し、同年9月28日までに91の回答（回収率83.5%）が得られた。

回答は自由記述であったが、回答内容は以下にまとめたように幾つかのグループに分けられる（括弧内の数字は回答件数。複数回答可）。

平仮名を用いた理由として多かったのは「① 親しみがもて、愛着を感じるため」「② 柔らかい・ソフトな印象であるため」で、平仮名のもつイメージに着目しての使用が目立った。

◇平仮名を用いた場合の理由

- ① 親しみがもて、愛着を感じるため(34)
- ② 柔らかい・ソフトな印象であるため(24)
- ③ 分かりやすいため(17)
- ④ デザイン性を重視したため(5)
- ⑤ 優しい印象であるため(3)
- ⑥ 語呂合わせをしたため(2)
- ⑦ 温かみがあるため(2)

漢字と比較すると平仮名は、親しみや愛着を感じられがちで、柔らかくソフトな印象をもつものとして好まれている。その理由として、

・暖か味のある平仮名を用いることで、小さなお子さんから高齢者の方まで広く

親しみやすい広報紙にしたいから〔広報みぶ〕

のように《読者の世代を広く設定していること》が挙げられた。

また、

・世代を超えて広く親しまれるよう、簡易な表現の紙面編集に努めている象徴と

して平仮名を用いている〔広報いちかわ〕

のように《分かりやすい紙面の象徴として用いていること》も挙げられた。

なお、「③ 分かりやすいため」には、以下のように誤読を避けるための実用的手段として平仮名を選択している場合も含まれていた。

- ・ 誰にでも読めるように（苦小牧→とまこまい（正）、とまこまき（誤り））

〔広報とまこまい〕

- ・ 地名（弘前）を正確に読んでもらうため。（※ひろまえと読ませない。）

〔広報ひろさき〕

- ・ 漢字だと読めない方もおり…〔広報わたり〕

- ・ 「木更津」は「きさらづ」なのか「きさらず」なのか、わかりづらいので、広報紙のタイトルは、平仮名で表記して誰もがわかるようにしている〔広報きさらづ〕

一方、漢字を選択した理由は以下であった。

◇漢字を用いた場合の理由

- ① 親しみがもて、愛着を感じるため(2)
- ② 分かりやすいため(1)
- ③ デザイン性を重視したため(1)

このほか、片仮名、ローマ字を用いた理由については、回答が得られなかった。ただし、ローマ字については、参考になる回答が得られている。調査対象期間（2008年）には平仮名であった紙名がアンケート実施時（2009年）には紙名変更によってローマ字となっていた事例が2件あったからである。

『広報紙こうべ』は2009年1月から『広報紙 KOBE』に変更された。「文字を大きくするなどの見直しにあたって、平仮名からリニューアルしました。公募の結果選定し、市民に親しみのある文字であり国際都市としてのオリジナリティを表現できると判断したため、ローマ字表記にしています。」と回答があった。また、『広報田辺』は2009年7月からローマ字を併

記した『広報田辺 Tanabe』に変更された。アンケートには「ローマ字は、デザインとして使用しています。」と回答があった。

4. 広報紙で特に配慮されている読者層

3.2.のアンケート（2009年6月9日付け）では、次のような質問も行っている（選択肢末尾の数字は回答数。複数回答可）。

- ・広報紙を編集する上で、特に配慮している読者層はありますか。当てはまるものを幾つでも選んでください。

(ア) 高齢者(66) (イ) 子供(34) (ウ) 外国人(5) (エ) その他(28)

最も多かった回答は、「高齢者」66件で、回答91件の72.5%に当たる。

高齢者が公官庁で使用する言葉に何を求めているかについて、最近興味深い調査結果が報告されている。文化庁文化部国語課が実施した『平成22年度国語に関する世論調査』⁵⁾（2011）の問12では、「公官庁などの文書で使用する言葉としてのふさわしさ」についての質問調査が行われた。

調査語は、「措置」「救援する」「懇請」「一環として」「充当する」「即応した」「牙保」「拒否する」「阻む」「充填する」「堅持する」「陳述する」の12語である。このうち、「牙保」「懇請」「充填する」は「公官庁などが示す文書では、もっと分かりやすい言葉に置き換えた方が良い」の割合がそれぞれ65.7%、54.4%、47.6%で、「公官庁などが示す文書で使用しても問題ない」の割合を上回った。この世論調査の前問（問11）では、同じ12語について「日常生活で見掛ける言葉か」を質問調査しており、その結果と合わせると、

「日常生活で見掛ける（計）」の割合が高い語ほど「公官庁などが示す文書で使用しても問題ない」と答えた人の割合も高くなる傾向が見られる（同報告書51ページ）

という。

また、「措置」「救援する」「一環として」「即応した」「拒否する」「阻む」は、男女60歳以上で、

「公官庁などが示す文書では、もっと分かりやすい言葉に置き換えた方が良い」の割合が他の年代に比べ高くなっている（同報告書51ページ）

という。

以上からは、現代社会で《公官庁などが示す文書でも、日常生活でも使う言葉で書くことが求められていること》、《高齢者ほど分かりやすい言葉を望んでいること》が分かる。

広報紙も、こうした社会の要請に配慮しながら編集されている媒体と言える。

5. 広報紙の表記のよりどころ

広報紙は、用字のよりどころを何に求めているのであろうか。3.2.のアンケート（2009年6月9日付け）では、次のような質問も行った（選択肢末尾の数字は回答数）。

・広報紙の編集担当者として、語の書き表し方（ある語を漢字で書くか仮名で書くかなど）について疑問を持ったり、迷ったりすることはありますか。次の中から、当てはまるものを一つ選んでください。

（ア）よくある(43) （イ）時々ある(42)

（ウ）余りない(5) （エ）全くない(1)

疑問をもったり、迷ったりすることについて、「よくある」「時々ある」を合わせた「ある」は85件に上る。これは、回答のあった広報紙（91件）の93.4%に当たる。

さらに、（ア）（イ）を選んだ回答者への質問として、次の質問をした（選

択肢末尾の数字は回答数。複数回答可)。

・では、どのような方法で解決していますか。あてはまるものを、
幾つでも選んでください。

- (a) 担当者が独自に判断する(4)
- (b) 上司や同僚に尋ねる(42)
- (c) 広報紙のバックナンバーで、同じ語の書き表し方を調べる(54)
- (d) 一般書籍・雑誌で、同じ語の書き表し方を調べる(9)
- (e) 新聞の紙面で、同じ語の書き表し方を調べる(15)
- (f) 新聞社の用字用語集を調べる(71)
- (g) 国の機関等の公文書のよりどころ・基準を調べる(2)
- (h) 自分の市区町村独自のよりどころ・基準があるので、それに従う(19)
- (i) 外部の機関に問い合わせる(2)
- (j) その他(9)

独自の表記基準（漢字で書くか仮名で書くか等のよりどころ）をもって
いるのは、「(h) 自分の市区町村独自のよりどころ・基準があるので、そ
れに従う」と回答した19件で、全91紙の20.9%に当たる。例えば、豊島区
では、「広報としま 表記ルール」を庁内の全課に配付し、統一をはかっ
ている」という。

最も多く選択されたのは、「(f) 新聞社の用字用語集を調べる」で54件
あった。「(j) その他」を選択した場合の自由記述にも「「記者ハンドブ
ック」を参考にする」(伊豆市)、「NHKの用字用語集で調べる」(江東区)
が1件ずつあった。これに、「(e) 新聞の紙面で、同じ語の書き表し方を
調べる」15件を加えると、計71件(約78.0%)が報道機関の表記(用語用
字集)を参考にしていることになる。

一方、公用文の用字を参考にしているという回答は、少数派であった。
「(g) 国の機関等の公文書のよりどころ・基準を調べる」は2件にすぎな
かった。「(j) その他」の自由記述に記された、「「公用文の表記」(東方

出版社)を使用する」(豊島区)、「常用漢字であるかどうか辞書で確かめ、常用漢字外であれば、ルビをふったり、平仮名にしたりします」「[確定国語表記(MG図書)]を参考にします」「新聞は「誰」とかという文字を常用漢字外なのに使用しているので参考にしません」(以上、天理市)、「[公用文の表記]を参照する」(田辺市)の3件を加えても、計5件(5.5%)に留まった。

報道機関の表記(用語用字集)が最も多く参照されるのは、広報紙が新聞と近い性格を持っているという判断によるものであろう。しかし、市区町村の広報紙は広報だけでなく広聴⁶⁾も目的としており、本稿8.で示すように、生活者や現場の「声」の引用、注意喚起・呼びかけといった、新聞と異なる文体も多く使われる媒体である。また、表記ルールを独自に整理している市区町村が2割程度存在することからも、報道機関の表記(用語用字集)は、あくまで代用として用いられたものと考えられる。

6. 広報紙における副詞 —公用文の用語例との比較—

回答のあった広報紙の8割近くが参照している報道機関の表記基準は常用漢字表を土台としている⁷⁾。公用文の用字も常用漢字表⁸⁾を基準としており、両者の用字は大きく違ったものにはなっていないはずである。

しかし、広報紙担当者から「公用文と広報紙では、使われる言葉が全く異なる」旨の意見がよく聞かれる。果たして、広報紙と公用文用語とではどの程度異なるのだろうか。

ここでは、広報紙で使用される副詞が、公用文のそれとどう違うのかについて検討してみたい。

公用文の書き表し方についての資料として、本調査の時点では、文化庁編『公用文の書き表し方の基準(資料集)増補二版』(平成13年5月30日

・第一法規株式会社)が存在した。この資料集中で、副詞の表記のよりどころとなるものは、以下の二種である。

《公用文における漢字使用等について》

「常用漢字表」を受けて、事務次官会議が、各政府機関が作成する公用文の表記の統一を図るために申合せたものである。昭和56年10月1日に内閣官房長官から各省庁事務次官あてに「通知」されたもので、各省庁はこれに沿って文書の表記を行うことになっている。

《文部省用字用語例》

「常用漢字用」及び「公用文における漢字使用等について」を受けて、昭和56年12月に、文部省で公用文を作成する上での参考にするためとして、省内に配布されたものである。

このうち、示された用語数が多いのは「文部省用字用語例」で、副詞としての使用が可能なのは以下の166項目である。以下、「文部省用字用語例」の「書き表し方」欄の表記によって示す（下線を付したものは、「文部省用字用語例」で言い換えの語句が示されており、公用文でも避けられるもの）。

〔ア行〕 あいにく あえて 飽くまで あたかも 余り あらかじめ
改めて 併せて 勢い 幾ら いささか いづれ 至って
一番 一向 一切 一緒 一斉 一層 いったん 今更
いまだ いよいよ いろいろ 言わば いわんや 大いに
大方 おおむね おおよそ おかげ 恐らく 追って
各・各々 おのずから 主に およそ

〔カ行〕 概して かえって かつて 必ず かなり かねて 極めて
くれぐれも けだし けっこう ごく こそって 殊に
ころ

〔サ行〕 幸い さきに 先ほど さすがに 早速 さほど 更に
強いて しきりに 至極 実に しばしば しばらく 十分

随分 少なくとも すぐに 少し 既に すべて せっかく
切に 是非 総じて 相当 そもそも

〔タ行〕 大概 大層 大体 大抵 大分 大変 絶えず 互いに
たくさん 多少 ただ 直ちに たちまち たとい(たとえ)
例えば 多分 近ごろ 逐一 ちょうど ちょっと 次いで
ついでに ついに 都度 努めて 常に 到底 とうとう
とかく(とにかく, ともかくにも) とき 特に 突然
とても 取りあえず

〔ナ行〕 なお なかなか 半ば なぜ 何とぞ なるべく なるほど
如実に にわか

〔ハ行〕 初めて 果たして 日ごと 日ごろ ひたすら ひとしお
一たび 独り 再び ふだん ふと 奮って ほとんど
ほぼ 本当

〔マ行〕 誠に 正に まず ますます 又 真っ先 全く まま
間もなく 自ら みだりに むしろ もし もちろん 最も
専ら もとより

〔ヤ行〕 やがて やはり やむを得ず やや 悠々 ようやく 余計
よほど より よろしく

〔ワ行〕 わざと わずか 割合 割に

このうち、広報紙での使用が認められなかった副詞は、「いきおい」「いたって」「いわんや」「おのずから」「およそ」「けだし」「たいがい」「たいてい」「つとめて」「にわか」「ひとり」「また」「まま」「わざと」「わりあい」「わりに」の16語であった。漢文訓読臭の強い「いわんや」「けだし」は「文部省用字用語例」でも、それぞれ「いうまでもなく」〔多分, 大方〕という言い換えの例が示されており、公用文でも避けられる方向にある。

これら16語を除いた150の副詞は、広報紙でも使用されるものであった。

7. 広報紙における副詞の表記 —公用文の用字との比較—

7.1. 広報紙で用字の揺れがない副詞

広報紙で用字に揺れがない副詞の表記について、「文部省用字用語例」(以下、「用字用語例」とする)と、相違は少ないことが分かる。

表2は、用字用語例で平仮名表記を採用している場合で、広報紙も平仮名表記となることが多い。ナニトゾ1語だけは広報紙で「何卒」と漢字表記され、用字用語例と異なっていた。

表3は、用字用語例で漢字表記を採用している場合で、広報紙も漢字表記となるものが多い。イクラ、イマサラ、イワバ、オソラク、タイソウ、タブン、ヒトタビの7語は広報紙でそれぞれ、「いくら」「いまさら」「いわば」「おそらく」「たいそう」「たぶん」「ひとたび」と平仮名表記され、用字用語例と異なっていた。

7.2. 広報紙で用字の揺れがある副詞

広報紙での用字に揺れがある副詞について、用字用語例と比較する。

表4は、用語用字例で仮名表記を採用している場合で、広報紙でも平仮名表記が漢字表記を上回ることが多い。これとは反対に、広報紙で漢字表記が平仮名表記を上回ったのは、コロ、ケッコウ、サキニ、フダンの4語で、それぞれ「頃」「結構」「先に」「普段」と表記されていた。

また、表5は用字用語例で漢字表記を採用している場合で、広報紙でも漢字表記が平仮名表記を上回ることが多い。ただし、コトニ、ハタシテの2語は漢字表記と平仮名表記が同数、アマリ、サラニ、ズイブン、ステニ、ゼヒ、ダイブ、マサニ、マモナク、ユウユウの9語は、平仮名表記(「あまり」「さらに」「ずいぶん」「すでに」「ぜひ」「だいぶ」「まさに」「まもなく」「ゆうゆう」)が漢字表記を上回った。

表2 広報紙で用字の揺れがない副詞（用字用語例で平仮名表記の語）

語	用字用語例の 表記	広 報 紙				
		平仮名表記	頻度	漢字表記	頻度	合計
イズレ	いずれ	いずれ	988	何れ	0	988
ヨリ	より	より	396	白	0	396
トデモ	とでも	とでも		進も	0	301
チョット	ちよっと	ちよっと	144	一寸	0	144
ヨロシク	よろしく	よろしく		直しく	0	94
				直敷	0	
モシモシ	もしもし	もし	91	若し	0	91
ナルベク	なるべく	なるべく	89	可成	0	89
		なかなか	81	中々	0	
ナカナカ	なかなか			仲々	0	81
				却々	0	
イヨイヨ	いよいよ	いよいよ	61	愈	0	61
タダ	ただ	ただ	59	唯	0	59
			0	只	0	
ホボ	ほぼ	ほぼ	57	略	0	57
カツテ	かつて	かつて	46	嘗て	0	46
モチロン	もちろん	もちろん	40	勿論	0	40
ヤハリ	やはり	やはり	39	矢張り	0	39
カナリ	かなり	かなり	36	可成り	0	36
ナルホド	なるほど	なるほど	30	成程	0	30
シバラク	しばらく	しばらく	27	暫く	0	27
ヤガテ	やがて	やがて	27	繼て	0	27
モトヨリ	もとより	もとより	26	固より	0	26
				素より	0	
ヤヤ	やや	やや	23	稍	0	23
アイニク	あいにく	あいにく	18	生憎	0	18
ゴク	ごく	ごく	18	極	0	18
タトイ	たとい	たとい	0	伝令	0	18
		たとえ	18		0	
アクマデ	あくまで	あくまで	0	飽く迄	0	17
		あくまで	17	あく迄	0	
クレクレモ	くれくれも	くれくれも	15	殊々も	0	15
ヨウヤク	ようやく	ようやく	15	漸く	0	15
シバシバ	しばしば	しばしば	14	屢々	0	14
フト	ふと	ふと	10	不図	0	10
トリアエズ	取りあえず	取りあえず	0	取り敢えず	0	8
		とりあえず	8	とり敢えず	0	
カエッテ	かえって	かえって	7	却って	0	7
ムシロ	むしろ	むしろ	7	寧ろ	0	7
ソモソモ	そもそも	そもそも	6	抑も	0	6
アエテ	あえて	あえて	5	敢えて	0	5
アタカモ	あたかも	あたかも	5	恰も	0	5
カネテ	かねて	かねて	5	予て	0	5
セツカク	せつかく	せつかく	5	折角	0	5
ヒゴト	日ごと	日ごと	5	日毎	0	5
ヒタスラ	ひたすら	ひたすら	5	只管	0	5
サキホド	先ほど	先ほど	4	先程	0	4
サスガニ	さすがに	さすがに	4	流石に	0	4
タチマチ	たちまち	たちまち	4	忽ち	0	4
ツイデニ	ついでに	ついでに	4	序に	0	4
トウトウ	とうとう	とうとう	4	到頭	0	4
ミダリニ	みだりに	みだりに	4	妄に	0	4
				濫に	0	
イササカ	いささか	いささか	2	些か	0	2
			0	聊か	0	
オオヨソ	おおよそ	おおよそ	2	大凡	0	2
コソツテ	こそつて	こそつて	2	率って	0	2
シキリニ	しきりに	しきりに	2	頻りに	0	2
ヒトシオ	ひとしお	ひとしお	2	一入	0	2
ヨホド	よほど	よほど	2	余程	0	2
サホド	さほど	さほど	1	左程	0	1
				然程	0	
トカク	とかく	とかく	1	兎角	0	1
ナニトゾ	何とぞ	何とぞ	0	何卒	1	1
		なにとぞ	0			

表3 広報紙で用字の揺れがない副詞（用字用語例で漢字表記の語）

語	用字用語例 の表記	広 報 紙				
		平仮名表記	頻度	漢字表記	頻度	合計
タガイニ	互いに	たがいに	0	互いに	101	101
タシヨウ	多少	たしょう	0	多少	23	23
サイワイ	幸い	さいわい	0	幸い	12	12
サツソク	早速	さつそく	0	早速	10	10
ジツニ	実に	じつに	0	実に	10	10
スクナクトモ	少なくとも	すくなくとも	0	少なくとも	9	9
オツテ	追って	おつて	0	追って	7	7
オノオノ	各々	おのおの	0	各々	4	4
		各	4	各	0	4
ソウトウ	相当	そうとう	0	相当	3	3
ツイデ	次いで	ついで	0	次いで	3	3
イツコウ	一向	いっこう	0	一向	2	2
ガイシテ	概して	がいて	0	概して	2	2
トウテイ	到底	とうてい	0	到底	2	2
マッサキ	真っ先	まっさき	0	真っ先	2	2
オオカタ	大方	おおかた	0	大方	1	1
シイテ	強いて	しいて	0	強いて	1	1
シゴク	至極	しごく	0	至極	1	1
セツニ	切に	せつに	0	切に	1	1
ソウジテ	総じて	そうじて	0	総じて	1	1
タエズ	絶えず	たえず	0	絶えず	1	1
チクイチ	逐一	ちくいち	0	逐一	1	1
ナカバ	半ば	なかば	0	半ば	1	1
ニョジツニ	如実に	にょじつに	0	如実に	1	1
イクラ	幾ら	いくら	20	幾ら	0	20
イワバ	言わば	いわば	9	言わば	0	9
タブン	多分	たぶん	6	多分	0	6
オソラク	恐らく	おそらく	4	恐らく	0	4
タイソウ	大層	たいそう	2	大層	0	2
ヒトタビ	一たび	ひとたび	2	一度	0	2
イマサラ	今更	いまさら	1	今更	0	1

表4 広報紙で用字の揺れがある副詞（用字用語例で平仮名表記の語）

語	用字用語例 の表記	広 報 紙				
		平仮名表記	頻度	漢字表記	頻度	合計
スベテ	すべて	すべて	235	全て 総て 凡て	34 0 0	269
マズ	まず	まず	233	先ず	4	237
オオムネ	おおむね	おおむね	209	概ね	26	235
トキ	とき	とき	176	時	55	231
タクサン	たくさん	たくさん	204	沢山	2	206
ヒゴロ	日ごろ	日ごろ	156	日頃	35	191
スグニ	すぐに	すぐに	171	直に	1	172
アラカジメ	あらかじめ	あらかじめ	110	予め	6	116
ナゼ	なぜ	なぜ	112	何故	4	116
ホトンド	ほとんど	ほとんど	70	殆ど	1	71
マスマス	ますます	ますます	64	益々	3	67
オカゲ	おかげ	おかげ	51	お蔭	6	57
ワスカ	わずか	わずか	41	僅	1	42
イツタン	いったん	いったん	30	一旦	8	38
ナオ	なお	なお	33	尚 猶	1 0	34
チヨウド	ちようど	ちようど	24	丁度	1	25
イロイロ	いろいろ	いろいろ	21	色々 種々	1 0	22
イマダ	いまだ	いまだ	15	未だ	5	20
ツイニ	ついに	ついに	14	遂に	1	15
チカゴロ	近ごろ	近ごろ	3	近頃	1	4
コロ	ころ	ころ	153	頃	187	340
フダン	ふだん	ふだん	10	普段	136	146
ケッコウ	けっこう	けっこう	3	結構	11	14
サキニ	さきに	さきに	2	先に	6	8

表5 広報紙で用字の揺れがある副詞（用字用語例で漢字表記の語）

語	用字用語例の 表記	広 報 紙				合計
		平仮名表記	頻度	漢字表記	頻度	
イッショ	一緒	いっしょ	77	一緒	717	794
カナラズ	必ず	かならず	8	必ず	651	659
ハジメテ	初めて	はじめて	26	初めて	258	285
スコシ	少し	すこし	1	少し	266	267
ジュウブン	十分	じゅうぶん	7	十分 充分	235 0	249
タイヘン	大変	たいへん	13	大変	224	237
オモニ	主に	おもに	2	主に	175	177
モットモ	最も	もっとも	15	最も	160	175
トクニ	特に	とくに	4	特に	157	161
イチバン	一番	いちばん	11	一番	136	147
ホントウニ	本当	ほんとう	2	本当	132	134
アワセテ	併せて	あわせて	57	併せて	74	131
アラタメテ	改めて	あらためて	42	改めて	84	126
タトエバ	例えば	たとえば	26	例えば	96	122
ミスカラ	自ら	みずから	2	自ら	111	113
ツネニ	常に	つねに	1	常に	107	108
イツウ一層	一層	いっそう	14	一層	57	71
マツタク	全く	まったく	23	全く	34	57
イツセイ	一斉	いっせい	1	一斉	53	54
フタタビ	再び	ふたたび	3	再び	42	45
イツサイ	一切	いっさい	4	一切	40	44
トツゼン	突然	とつぜん	1	突然	36	37
キワメテ	極めて	きわめて	5	極めて	30	35
オオイニ	大いに	おおいに	2	大いに	29	31
フルツテ	奮って	ふるって	12	奮って	19	31
タダチニ	直ちに	ただちに	4	直ちに	20	24
ツド	都度	つど	6	都度	15	21
ヤムヲエズ	やむを得ず	やむをえず	2	やむを得ず 已むを得ず	19 0	21
ダイタイ	大体	だいたい	4	大体	6	10
マコトニ	誠に	まことに	2	誠に 真に 実に	5 0 0	7
モツバラ	専ら	もっぱら	2	専ら	5	7
ヨケイ	余計	よけい	1	余計	2	3
ハタシテ	果たして	はたして	2	果たして	2	4
コトニ	殊に	ことに	1	殊に	1	2
ゼヒ	是非	ぜひ	727	是非	41	768
サラニ	更に	さらに	230	更に	26	256
スデニ	既に	すでに	178	既に	78	256
アマリ	余り	あまり	111	余り	42	153
マサニ	正に	まさに	39	正に	3	42
マモナク	間もなく	まもなく	14	間もなく	13	27
ユウユウ	悠々	ゆうゆう	15	悠々	7	22
ズイブン	随分	ずいぶん	9	随分	5	14
ダイブ	大分	だいぶん	6	大分	2	8

7.3. 副詞の平仮名表記への傾斜と漢字表記への傾斜

用字用語例と比較して、広報紙で平仮名表記へと傾斜しているのは、イクラ、イワバ、タブン、オソラク、タイソウ、ヒトタビ、イマサラ、ゼヒ、サラニ、スデニ、アマリ、マサニ、マモナク、ユウユウ、ズイブン、ダイブの各語である。

これらを平仮名で「いくら」「いわば」「たぶん」「おそらく」「たいそう」

「ひとたび」「いまさら」「ぜひ」「さらに」「すでに」「あまり」「まさに」「まもなく」「ゆうゆう」「ずいぶん」「だいぶ」と書いた場合は、表音的に語形だけを表記したということになる。一方、公用文式に「幾ら」「言わば」「多分」「恐らく」「大層」「一たび」「今更」「是非」「更に」「既に」「余り」「正に」「間もなく」「悠々」「随分」「大分」と漢字で書いた場合、副詞化する前の原義も想起させ得ることになる。平仮名を選んだ方が、情報量は少ない。副詞が、語の原義が薄まって機能語することによって定着したものであることを考えると、この情報量の少なさは情報伝達上のマイナスとはならない。

斎藤（2009a）では、公用文と一般書籍の用字（平仮名か漢字か）について比較した結果、以下の傾向があることを指摘した。

実質的意味が希薄な語等は、〔仮名書きを表従順とした場合は表記のゆれが少ない〕、〔漢字書きを標準とした場合は表記の揺れが大きく出ることがある〕と追う傾向があることが考慮されるべきであろう（25ページ）

また、斎藤（2009b）では公用文の表記について、

公用文の基準は、副詞、連体詞、接続詞の表記において漢字表記に偏っていることがある（116ページ）

ことを指摘した。

広報紙の副詞に平仮名表記への傾斜が見られることは、現代の書き言葉の一般の傾向を反映しているものと言えよう。

ただし、一部の副詞は、漢字表記への傾斜が見られる場合がある。ケッコウ、コロ、サキニ、フダンの各語がこれに該当する。

8. 記事内容と表記の関係

8.1. 記事内容の分類

広報紙は、新聞と似たフォーマットながら、その記事内容は特有のものである。本稿では、広報紙の記事内容を以下の7ジャンルに分けた。

- (1) 市区町村の施策に関する記事
- (2) 催事、施設に関する記事
- (3) 手続方法、通知の時期、参加資格・募集条件に関する記事
- (4) 注意喚起・呼びかけを目的とする記事
- (5) 生活の情報、健康・保健に関する記事
- (6) 生活者や現場の「声」の引用（会話文）
- (7) 地域の風俗・行事・歴史に関する記事

この7ジャンルと副詞の使用の関係を見ると、特定の記事内容に偏在するものと、広範な記事内容に使われるものがある。

以下では、使用数が上位の副詞を対象に、《特定の記事内容への偏在の有無》と《表記の揺れの様子》との関係を見ることにする。

使用数が上位の副詞は、副詞全体の延べ語数11,579語を100%とし、上位からの累積度数が80%を超えるまでの副詞とした。表6の35位までの副詞がそれに当たる。

表6 広報紙で用いられた副詞の頻度数及び累積度数

順位	語	頻度	度数%	累積度数%	順位	語	頻度	度数%	累積度数%
1	イスレ	988	8.53%	8.53%	75	ツド	21	0.18%	96.05%
2	イッショ	794	6.86%	15.39%	75	ヤムラエズ	21	0.18%	96.23%
3	セヒ	768	6.63%	22.02%	77	イクラ	20	0.17%	96.41%
4	カナラズ	659	5.69%	27.71%	77	イマダ	20	0.17%	96.58%
5	ヨロ	396	3.42%	31.13%	79	コク	18	0.16%	96.74%
6	コロ	340	2.94%	34.07%	79	タイ	18	0.16%	96.89%
7	トチモ	301	2.60%	36.67%	81	アウマデ	17	0.15%	97.04%
8	ハジメテ	285	2.46%	39.13%	82	フレグレモ	15	0.13%	97.17%
10	スコン	267	2.31%	43.76%	82	ヨウヤク	15	0.13%	97.43%
11	サラニ	256	2.21%	45.97%	85	ケッコウ	14	0.12%	97.55%
11	ステニ	256	2.21%	48.18%	85	シバシバ	14	0.12%	97.67%
13	ジュウブン	249	2.15%	50.33%	85	スイブン	14	0.12%	97.79%
14	タイヘン	237	2.05%	52.38%	88	サイワイ	12	0.10%	97.89%
14	マズ	237	2.05%	54.43%	89	サツソク	10	0.09%	97.98%
16	オオムネ	235	2.03%	56.46%	89	ジツニ	10	0.09%	98.07%
17	トキ()	231	1.99%	58.45%	89	ダイタイ	10	0.09%	98.15%
18	タウサン	206	1.78%	60.23%	89	フト	10	0.09%	98.24%
19	ヒコロ	191	1.65%	61.88%	93	イワバ	9	0.08%	98.32%
20	オモニ	177	1.53%	63.41%	93	スクナウトモ	9	0.08%	98.39%
21	モットモ	175	1.51%	64.92%	95	サキニ	8	0.07%	98.46%
22	スグニ	172	1.49%	66.40%	95	ダイブ	8	0.07%	98.53%
23	トウニ	161	1.39%	67.80%	95	トリアエズ	8	0.07%	98.60%
24	イチバン	147	1.27%	69.06%	98	オッテ	7	0.06%	98.66%
25	フダン	146	1.26%	70.33%	98	カエッテ	7	0.06%	98.72%
26	チョウト	144	1.24%	71.57%	98	マコトニ	7	0.06%	98.78%
27	アタメテ	126	1.09%	72.66%	98	ムコロ	7	0.06%	98.84%
28	タトエバ	122	1.05%	73.71%	102	モソモソ	6	0.05%	98.89%
29	アラカジメ	116	1.00%	74.71%	102	タフン	6	0.05%	98.95%
29	ナゼ	116	1.00%	75.71%	104	アエテ	5	0.04%	98.99%
31	ミスカラ	113	0.98%	76.69%	104	アタカモ	5	0.04%	99.03%
32	ホントウ(ニ)	111	0.96%	77.65%	104	カネテ	5	0.04%	99.08%
33	ツネニ	108	0.93%	78.58%	104	セウカク	5	0.04%	99.12%
34	アマリ	104	0.90%	79.48%	104	ヒゴト	5	0.04%	99.16%
35	タガイニ	101	0.87%	80.35%	104	ヒタスラ	5	0.04%	99.21%
36	ヨロシク	94	0.81%	81.16%	104	モッバラ	5	0.04%	99.25%
37	モシ	91	0.79%	81.95%	111	オンゾク	4	0.03%	99.28%
38	ナルベク	89	0.77%	82.72%	111	オノオノ	4	0.03%	99.32%
39	ナカナカ	81	0.70%	83.42%	111	サキホド	4	0.03%	99.35%
40	アワセテ	74	0.64%	84.06%	111	サスガニ	4	0.03%	99.39%
41	イッソウ	71	0.61%	84.67%	111	タチマチ	4	0.03%	99.42%
41	ホントド	71	0.61%	85.28%	111	チカゴロ	4	0.03%	99.46%
43	マスマス	67	0.58%	85.86%	111	ツイデニ	4	0.03%	99.49%
44	イヨイヨ	61	0.53%	86.39%	111	トウトウ	4	0.03%	99.53%
45	タダ	59	0.51%	86.90%	111	ハダシテ	4	0.03%	99.56%
46	オカゲ	57	0.49%	87.39%	111	ミダシニ	4	0.03%	99.59%
46	ホホ	57	0.49%	87.88%	121	ソウトウ	3	0.03%	99.62%
46	マツタク	57	0.49%	88.36%	121	ツイデ	3	0.03%	99.65%
49	イヨセイ	53	0.46%	88.83%	121	ヨクタイ	3	0.03%	99.67%
50	カフテ	46	0.40%	89.23%	124	イササカ	2	0.02%	99.69%
51	フタタビ	45	0.39%	89.62%	124	イッコウ	2	0.02%	99.71%
52	イッサイ	44	0.38%	90.00%	124	オオヨソ	2	0.02%	99.72%
53	マサニ	42	0.36%	90.36%	124	ガイシテ	2	0.02%	99.74%
53	ワスカ	42	0.36%	90.72%	124	コンッテ	2	0.02%	99.76%
55	モチロン	40	0.35%	91.07%	124	コトニ	2	0.02%	99.78%
56	ヤハリ	39	0.34%	91.41%	124	シキリニ	2	0.02%	99.79%
57	イッタン	38	0.33%	91.74%	124	タイソウ	2	0.02%	99.81%
58	トツゼン	37	0.32%	92.05%	124	トウテイ	2	0.02%	99.83%
59	カナリ	36	0.31%	92.37%	124	ヒトシオ	2	0.02%	99.84%
60	キワメテ	35	0.30%	92.67%	124	ヒトタビ	2	0.02%	99.86%
61	ナオ	34	0.29%	92.96%	124	マッサキ	2	0.02%	99.88%
62	オオイニ	31	0.27%	93.23%	124	ヨホド	2	0.02%	99.90%
62	フルッテ	31	0.27%	93.50%	137	イマサラ	1	0.01%	99.91%
64	ナルホド	30	0.26%	93.76%	137	サホド	1	0.01%	99.91%
65	シバナク	27	0.23%	93.99%	137	シイテ	1	0.01%	99.92%
65	ヤカテ	27	0.23%	94.22%	137	シゴク	1	0.01%	99.93%
67	マモナク	26	0.22%	94.45%	137	セツニ	1	0.01%	99.94%
67	モトヨリ	26	0.22%	94.67%	137	ソウジテ	1	0.01%	99.95%
69	チョウド	25	0.22%	94.89%	137	タエズ	1	0.01%	99.96%
70	タダチニ	24	0.21%	95.09%	137	テウイチ	1	0.01%	99.97%
71	タショウ	23	0.20%	95.29%	137	トカク	1	0.01%	99.97%
71	ヤヤ	23	0.20%	95.49%	137	ナカバ	1	0.01%	99.98%
73	イロイロ	22	0.19%	95.68%	137	ナニトゾ	1	0.01%	99.99%
73	ユウユウ	22	0.19%	95.87%	137	ニョジツニ	1	0.01%	100.00%
					合	計	11579		

8.2. 特定の記事内容に偏在する副詞

使用数が上位の副詞35語の中で、特定の記事内容に偏在する副詞は以下の16語であった。

◇特定の記事内容に偏在する副詞（使用頻度順）

イズレ、イッショ、ゼヒ、カナラズ、ヨリ、トテモ、スベテ、
 ジュウブン、オオムネ、チョット、タトエバ、アラカジメ、ナゼ、
 ホントウニ、ツネニ、タガイニ

これらの16語について、目立って使用される別に特徴的な語という視点で整理すると以下ようになる。

- (1) 「市区町村の施策に関する記事」での使用が多くを占める副詞
 - 《平仮名表記》ヨリ
 - 《平仮名表記が多い》スベテ、オオムネ、ナゼ
 - 《漢字表記が多い》ツネニ
- (2) 催事、施設に関する記事での使用が多くを占める副詞
 - 《平仮名表記》イズレ
 - 《平仮名表記が多い》ゼヒ
 - 《漢字表記が多い》イッショ
- (3) 「手続方法、通知の時期、参加資格・募集条件に関する記事」での使用が多くを占める副詞
 - 《平仮名表記》イズレ
 - 《平仮名表記が多い》スベテ、オオムネ、アラカジメ
 - 《漢字表記が多い》カナラズ、タトエバ、ツネニ
- (4) 注意喚起・呼びかけを目的とする記事
 - 《漢字表記が多い》カナラズ、ジュウブン
 - 《漢字表記》タガイニ
- (5) 生活の情報、健康・保健に関する記事
 - 《平仮名表記》トテモ、チョット

《漢字表記が多い》イッショ

(6) 生活者や現場の「声」の引用（会話文）

《平仮名表記》トテモ

《漢字表記が多い》ホントウニ

(7) 地域の風俗・行事・歴史に関する記事

《平仮名表記》トテモ

《平仮名表記が多い》ナゼ

《漢字表記が多い》タトエバ

8.3. 広範な記事内容に使われる副詞

使用数が上位の副詞35語の中で、広範な記事内容に使われる副詞は以下の19語であった。

◇広範な記事内容に使われる副詞（使用頻度順）

コロ、ハジメテ、スコシ、サラニ、ステニ、タイヘン、マズ、
トキ⁹⁾、タクサン、ヒゴロ、オモニ、モットモ、スグニ、トクニ、
イチバン、フダン、アラタメ、ミズカラ、アマリ

8.4. 記事内容と副詞の表記

特定の記事内容に偏在する副詞16語について見ると、(1)～(3)、(5)～(7)の各ジャンルに特徴的な副詞には、平仮名表記が多い語もあれば漢字表記が多い語も見られる。その中で、(4)の「注意喚起・呼びかけを目的とする記事」に特徴的な副詞は、漢字表記の方が多い。

カナラズは、以下の(a)(b)(c)のように、文頭に記号を伴った箇条書きの短い文で使われがちである。

(a) ○ タバコの火は必ず消し、投げ捨ては絶対にやめましょう。〔広報おとふけ〕

(b) ○ 必ず水泳帽を着用すること〔広報ひろさき〕

(c) ● たばこは、必ず消すとともに、投げ捨てないこと〔広報あいづみさと〕

ジュウブンは(d)(e)のように、文頭に記号を伴った箇条書きの短い文で使われたり、(e)(f)のように動詞「注意する」を伴う固定表現として使われたりする。

(d) ○ 夜間は、周囲に十分気を配り、スピードを抑えた運転を〔広報こおりやま〕

(e) ・火の元には、十分注意しましょう。〔広報わたり〕

(f) 花火をするときは、次のこと十分注意して行いましょう！〔広報ずし〕

タガイニは、(g)のように「お互いに」という固定した表現で用いられる。

(g) ★ 携帯電話や傘を使いながらの走行はたいへん危険です。お互いに気をつけあい、安全運転を心掛けましょう。〔ひがし区民のページ（札幌市東区）〕

以上のように、注意喚起・呼びかけを目的とする場合、短い文の中で情報を的確に伝えるための表記として、漢字での表記が好まれることがあると考えられる。

一方、広範な記事内容に使われる副詞19語このうち、平仮名表記が多いのは、

サラニ、ステニ、マズ、トキ、タクサン、ヒゴロ、スグニ、アマリであり、漢字表記が多いのは、

コロ、ハジメテ、スコシ、タイヘン、オモニ、モットモ、トクニ、イチバン、フダン、アラタメテ、ミズカラである。

音読みの副詞であっても「たくさん」と平仮名表記が多い場合もあり、訓読みの副詞であっても「～頃」「初めて」「少し」「主に」「最も」「改めて」「自ら」と漢字を当てることもある。

7.3. で述べたように、広報紙の副詞には、平仮名表記に傾斜しているものと漢字表記に傾斜しているものがあるが、今回調査した中では一定の傾向は見出せず、語によって状況が異っていた。

むすび

本稿で述べたことをまとめると、以下のようになる。

- (1) 広報紙の紙名中の地名表記は、平仮名が多い。広報紙の中で、平仮名は、親しみや愛着を感じられがちで、柔らかくソフトな印象であるという理由によって好まれている。
- (2) 広報紙の多くは、高齢者に分かりやすいものであることを目指している。世論調査の結果から、高齢者は分かりやすい言葉を望んでいる求めていることが分かる。
- (3) 広報紙の表記のよりどころは、2割ほどの広報紙で独自に表記ルールを作成している。最も多いのは、新聞等の表記（用字用語集）を代用としている場合である。また、公用文の用字をよりどころとしている場合は稀である。
- (4) 広報紙の副詞の用字は、公用文の用字と比較して、平仮名表記に傾斜しているものと漢字表記に傾斜しているものが見られる。
- (5) 広報紙の副詞は、同一ジャンルの記事内であっても用字の選択に特定の傾向が認められない。ただし、「注意喚起・呼びかけを目的とする記事」に特徴的な副詞は、漢字表記に傾斜していることがある。

以上、話題が拡散してしまっただが、公共性の高い情報媒体としての広報紙の副詞とその表記について、現段階での調査の結果を報告した。

注

- 1) 「(ア) 漢字のみ」17タイトルは、以下のとおり。

『広報遠野』、『浦和区版』（さいたま市浦和区）、『鶴見区版』（横浜市鶴見区）、『磯子区版』（横浜市磯子区）、『瀬谷区版』（横浜市瀬谷区）、『守山区版』（名古屋市

守山区),『右京区版』(京都市右京区),『宇治市政だより』,『広報京丹波』,『堺区広報堺』(堺市堺区),『広報今治』,『広報土佐』,『広報田辺』,『市報松江』,『佐伯区だより』(広島市佐伯区),『広報有田』,『市政だより天草』

2) 「(イ) 平仮名のみ」80タイトルは、以下のとおり。

『ひがし区民のページ』(札幌市東区),『ていね区民のページ』(札幌市手稲区),『広報とまこまい』,『広報のほりべつ』,『広報おとふけ』,『広報ひろさき』,『広報わたり』,『広報あきた』,『市報かみのやま』,『広報こおりやま』,『広報あいづみさと』,『広報つちうら』,『広報とりで』,『広報つくばみらい』,『広報あしかがみ』,『広報なすしおばら』,『広報みぶ』,『広報まえばし』,『広報おおた』,『広報しぶかわ』,『市報さいたま』(さいたま市),『広報ところざわ』,『広報あげお』,『広報くりはし』,『ちば市政だより』(千葉市),『広報いちかわ』,『広報きさらづ』,『広報そでがうら』,『広報しんじゅく』(東京都新宿区),『こうとう区報』(東京都江東区),『区のお知らせせたがや』(東京都世田谷区),『広報としま』(東京都豊島区),『ねりま区報』(東京都練馬区),『市報むさしの』,『広報まちだ』,『市報きよせ』,『広報よこはま』(横浜市),『市政だよりかわさき』(川崎市),『区政なかはら』(川崎市中原区),『広報かまくら』,『広報ずし』,『広報あつぎ』,『市報とおかまち「だんだん」』,『たかおか市民と市政』,『広報わじま』,『広報こうふ』,『広報うえだ』,『広報みなみみのわ』,『広報ひだ』,『広報はままつ』,『広報かけがわ』,『広報いず』,『広報なごや』,『広報とよた』,『広報とうごう』,『広報いせ』,『広報かめやま』,『広報くさつ』,『広報あいこうか』,『区民だよりよどがわ』(大阪市淀川区),『広報さかい』(堺市),『広報ひらかた』,『広報紙こうべ』(神戸市),『区民広報紙なだ』(神戸市灘区),『広報ひめじ』,『広報いこま』,『市報わかやま』,『広報よなご』,『広報やかげ』,『広報ひろしま市民と市政』(広島市),『広報ひかり』,『広報おのみち』,『広報いしい』,『広報たかまつ』,『広報くるめ』,『広報なかがわ』,『広報ながさき』,『市報べっぶ』,『広報ひゅうが』,『広報きりしま』

3) 「(オ) 複数の文字種」の内訳は以下のとおり。

◇「漢字と平仮名」2タイトル

『南区役所だより「みなみ風」』(新潟市南区),『広報しずおか静岡気分』(静岡市)

◇「漢字と片仮名」1タイトル

『広報南アルプス』

◇「漢字とローマ字」1タイトル

『天王寺区広報紙「いんふおめしよん tennoji」』

◇「平仮名ローマ字」2タイトル

『市政広報 FUKUI ふくい』,『広報たじみ「たじみすと Tajimist」』

4) 「(カ) 地名は含まれていない」6タイトルは、以下のとおり。

『市民しんぶん』（京都市）、『広報紙「もみじだより」』（箕面市）、『広報「町から町へ」』（天理市）、『市政だより』（仙台市）、『市政だより』（川崎市）、『市民のひろば』（名護市）

- 5) 『平成22年度国語に関する世論調査』は、層化2段無作為抽出法によって全国16歳以上の男女から3,000人を抽出して面接聴取したもの。調査時期は、平成23年2月19日～3月16日。有効回答数は、60.4%。
- 6) 今回調査した中で広報紙担当部署名が「広報公聴課」となっていた市区町村が26件見られた。また、社団法人日本広報協会の広報用 (<http://www.koho.or.jp/useful/words/index.html>) によると、「政策広報」とは、
周知だけでなく、理解や参加、協働などを目的とした広報のこと。政府や自治体が、国民・市民などの施策の対象者に向けて、現状報告や課題・問題提起を行い（広報）、それに対して発せられた意見（広聴）を、事業や計画に反映させるプロセス全体をいう。
とある。
- 7) 新聞用語懇談会の「新聞常用漢字表」は、日本新聞協会（2007）によると、常用漢字表の1945字から11字を除いた上で45字を加えて運用されていた。さらに、新聞社が独自に少数の加除を行うことも多く、例えば毎日新聞「毎日漢字表」は、「新聞常用漢字表」に9字を加えて運用されていた。
- 8) 本調査で対象とした2008年の時点では、昭和56年10月1日付けの「常用漢字表」（1945字）が現行のものとしてあった。
- 9) ただし、「トキ、」としての使用に限る。

参考文献

- 斎藤達哉（2009a）「公共性の高い文章における日本語表記の在り方—仮名で書くか、漢字で書くか」、『日本言語政策学会第11回大会予稿集』、pp23-25
- 斎藤達哉（2009b）「コーパスを用いた公共性の高い文章における表記改善への視点」、『特定領域研究「日本語コーパス」平成20年度公開ワークショップ（研究成果報告会）予稿集』、pp109-116
- 日本新聞協会（2007）『新聞用語集2007年版』、日本新聞協会
- 文化庁文化政策課（2011）『平成22年度国語に関する世論調査』、ぎょうせい
- 毎日新聞社（2007）『【改訂新版】毎日新聞用語集』、毎日新聞社

付記 本稿は、科学研究費補助金・若手研究（B）「公共情報媒体としての広報紙を対象とした表記法の在り方に関する調査研究」（課題番号：21720170、代表者：斎藤達哉）の研究成果の一部である。